

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602470		
法人名	有限会社 Kふあみりい		
事業所名	グループホーム みどりのうた		
所在地	福岡県久留米市東櫛原町1647-6		
自己評価作成日	平成22年7月26日	評価結果確定日	平成23年1月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設行事の充実による地域交流も重要と考えるが、それ以上に重要視しているのが、個人行事の充実が大切と考える。それは、当ホームが位置する周辺を 地域と呼ぶのではないと考えるからで、利用者の家族やなじみのお店、友人、懐かしく思える場所等は、個々の利用者の周辺地域であるため、その途切れた関係を個人行事で結び直すよう、取り組んでいます。ここで指す個人行事とは、けしておおげさなことではなく、チョット前には、できていた日常の行為でいきつけの美容室に行く、カラオケ、琴、三味線、等の稽古などの参加やお墓参り、結婚式、などごくごく身近な個人行事のことである。そこには、大切な家族、友人、などのなじみの関係と地域があると考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置し、ホームのすぐ傍には緑に囲まれた公園も点在し、四季折々の景色を堪能することが出来る。地域密着を目指し、現在他事業所と共同で地域資源の見直しを行っている。いずれは認知症にやさしいお店等を載せた地域マップを作っていく予定である。また、ホーム周りの地域だけではなく、入居者の生まれ育った場所も入居者にとっての「地域」であることを念頭において、元々のかかりつけ医や美容室等に連れて行ったり、友人に会いにきてもらったりしながら、これまでの関係が途切れることがないように支援を行っている。入居者はリビングに集い、ある人は塗り絵、またある人は編み物を楽しみ…という風に、それぞれの方にとっての時間の流れを大切に、思い思いにやりたいこと、好きなことを楽しみながら、自由に過ごしている。近所の家に遊びにきたかと錯覚するような空間が出来上がっていたホームであった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の際にスタッフ全員で、理念を復唱し、意識して仕事に取り組んでいる。	朝礼やカンファレンスの時間を利用して、毎回唱和しながら理念を共有し、実践に向けて日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営理念をユニットごとの入り口に掲示しており、又、契約のときに説明をしている。このことは、契約書の重要事項に記載しています。	8月は地域の子供神輿が行われ、その際にはホームを休憩場所として提供し、入居者と職員でお迎えをし交流を図っている。また、校区のお祭りが近所の小学校で行なわれ、同校の卒業生の入居者も参加する等、積極的に地域に出かけている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者の方やその家族に体験利用や食事とお風呂の提供をしている。子ども会には、学童保育の利用を進めている。又民生委員の会合や、地域の催しに参加し、ホームのことや理念の啓発を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状態の報告と共に課題の確認と進捗状況の報告を通じてサービスの質の向上に生かすようにしている。	2ヶ月に1回開催している。今年度より開催前には、入居者の家族全員にも案内を送付しており、6～7名は必ず参加されている。地域の自治会長や民生委員をはじめ、市職員、地域包括支援センター職員、また他のホームからの参加もあり、多くの参加者により会議が開催されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所単独の場合と久留米社会福祉事業者協議会などの活動の中で意見交換をしています。	これまで、何かあればお互いに電話を掛け合ったり、出向いていたりしながら、密に情報交換を行っていたが、今年度から担当者が変わったため、これから新たに協力関係を築いていく予定である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		新人研修の際に、徹底して話をするようにしている。運営者の身体拘束の定義に関する意識は高く、職員のチームワークを活かして、自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修の中で虐待防止の勉強会を実施をしている。又このことについては、厳しく対応しています。		

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年社外や社内研修の中で人権問題、成年後見制度について学んでいます。又施設の利用者の中にも活用されている方がいらっしゃいます。	外部研修を受講した職員がおり、その内容を報告書にまとめ、他の職員に回覧するようにしている。また、資料を準備し、必要時には活用に向けて支援や情報発信が行えるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一度の説明ではなくいく度も話し合いを重ねるようにしています。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の責任者の配置と自施設や久留米市、福岡県の窓口の連絡先等の掲示をしています。又指摘事項は、直ちに調査し改善をはかっています。	「家族の声ノート」を準備しており、職員が家族から吸い上げた意見や要望を記載するようにしている。そこに挙げたものについては、早急に対応・改善するように努めている。また、直接意見を言えない状況のことも想定し、意見箱の設置も行っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるユニット会議や全体会議等で、反映されるようにしています。	定期的にカンファレンスを開催しており、積極的に意見を出してもらう機会としている。その場を利用して、職員も意見や提案を挙げている。また、普段からも意見を言いやすい環境づくりが出来ている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	経験資格も採用の基準におかず広く募集しています。さらに応募に対して必ず全員の面接の実施をしています。	職員の採用に当たって、性別や年齢で決めることはなく、本人の就労に対する意識の高さや介護感等を重視して採用を決定している。定年制も廃止しており、体力が続く限りはいつまでも働くことができる環境としている。また、ホームで働いている職員には、「先生」と呼ばれるように、何か得意とするものをひとつでもいいから身につけるように話しをしており、その人の能力を十分に發揮できるよう働きかけている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	特に新規採用者についての基礎研修の中で指導をしています。	新人研修の時に話をするのをはじめとして、市のサービス事業所協議会で開催している研修等にも必ず参加するようにしている。	

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の充実に努めると共に久留米市社会福祉協議会の中で各種研修への参加をしています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の長寿介護課が働きかけ実施する。介護事業者と包括支援センターとの技術交流を中心とする。スタッフ交流を活発に行っている。NPO久留米市社会福祉協議会での研修を中心とした。スタッフ交流を行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式など利用しながらできるだけたくさんの方の情報を得ようと努力しています。さらに利用に対する不安がある場合は、体験入所等の利用もできます。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に家族からの情報提供は、重要と考えています。したがってここでもアセスメントツールのセンター方式などを利用しながら、できるだけ多くの情報収集を心がけています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHばかりではなくその他施設利用や当事業所には、小規模多機能施設も併設しているので、場合によっては、そちらの利用を進める場合もあります。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけそうした感動的な、時間を持てるよう努力しています。 けて特別な時間ではなく日常の中の新しい気づきの積み重ねと考えています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	むしろ一度切れた馴染みの関係をつなぎ直すことも役割と考えています。	入居者の生まれ育った場所を中心として、友達の所に会いに行ったり、美容室に行ったりして、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。また、以前の同級生がホームを訪ねてきてくれるような関係も出来ている。	

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	パートナーシップが築けるようグループ分け をし、座る場所も配慮しながら関係の維持を しています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も施設行事の案内の希望がある 場合、案内しながら関係が続いているご家 族もいらしゃいます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	認知症介護は、基本理念として常に本人本 位の支援をすることと考えています。	入居者の話をじっくり聞きながら、それぞ れの思いや希望を汲み取るように努めている。 また、センター方式を利用しながら、入居者 本人からだけでなく、その家族からも希望 を聞き取っている。	アセスメントの更新やファイリングの工 夫等により、職員間での共有がしやす いよう今後の充実が期待される。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人や家族からの情報収集を密にしてい ます。特に、本人の状態変化や新しい気づき などがあった場合アセスメントの取り直しを しています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ユニットケアの徹底と職員の配置に工夫を することによって、把握するようにしてい ます。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	当施設においてケアプランは、担当介護者 が作成しケアカンファにてケアマネージャー 及び計画作成担当者との会議の中で介護 計画を作成しています。多くの人がかかわる ことによってより多くの気づきやアイデアが 生まれると考えます。	入居者や家族の意見を事前に聞き、それを 踏まえそれぞれの担当者と計画作成担当 者が意見を出し合いながら計画を作成してい る。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、当然であるし、ケアプランの 達成が、難しい場合や停滞している場合、セ ンター方式など利用しながら、何度でもケア の見直しをしています。		

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHで対応が難しくても、関連施設に小規模多機能施設も併設していることもあり人的にも質的にも対応できると考えます。又久留米市社会福祉事業者協議会の中でも意見交換ができます。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々々の必要性にともなった協力をしています。比較的には、交流していると考えています。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を最優先し受診の支援も行っていきます。相談があればその他の医療機関との連携もしています。	元々のかかりつけ医を受診してもらっており、受診も看護師で対応するようにしている。また受診チェックシートを利用し、医師との情報交換がスムーズに行えるように工夫している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は医療連携によって把握しています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院の受け入れは、努めて行ってきました。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の介護、医療の支援についての各種研修の実施と医療連携先の訪問看護ステーションとかかりつけ医との連携でのみとも行ってきています。	指針を作成し、入居時にホームの方針を説明するようにしている。普段から訪問看護と主治医、ホーム職員とのチームにて入居者の健康管理を行っており、馴染みの関係を保ちながら看取りまで対応することが出来る環境を作っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて確認さらに利用者の変化でその危険性を感じるようになった場合緊急カンファや引継ぎ時にレクチャーするようにしています。		

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期避難の重要性を研修等で理解し消防の到着までの問題でなく、全ての人の非難と安全確保が出来るよう地域交流をしています。	年に2回、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練を行ったり、消防署から指導に来てもらったりしている。地域との協力体制を充実させていく取り組みが行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気付いた場合すぐに注意する。さらに改善されない場合、レポート提出による周知徹底をおこなっています。	入居者に対する対応や言葉かけ等、プライバシーを損ねることがないように、普段から十分注意している。個人情報の取り扱いについても事前に書面で同意を取るようになっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援と自己実現の支援をしています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、就寝時間、入浴時間等の決まりはありません。又レクリエーション等施設行事なども全員参加とは考えていません。自己決定の支援をすると考えるから。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	積極的に外出等の支援をしながら更衣の習慣性を持つこととなじみの関係の維持結び直しをしています。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	記載されてある支援は当然とし、食事の提供は、栄養士及び調理師の配置をしています。健康管理、食の安全、何より美味しくいただくためこのような対応をしています。	入居者と職員が同じ食事を同じテーブルで摂っており、家庭的な雰囲気は保たれている。厨房が離れたところにあり、一緒に調理を行うのは難しい面もあるが、野菜の皮むき等、出来る範囲で手伝いをしてもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式など利用しながらできるだけ皆さんの情報を得ようと努力しています。栄養面については、栄養士と調理師を配置しています。		

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	単なる歯磨きではなく個々の利用者に必要な口腔ケアを実施しています。その技術指導及び管理は、訪問歯科との連携により維持しています。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便コントロール委員会を設置し食事、おやつ、水分摂取、運動、腹部マッサージ、最後に服薬管理をやっていきます。このことから排便、排尿のリズムをチェックするようにしています。	必要な方にはセンター方式を活用し、排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。オムツはずしにも取り組んでおり、実際に必要の無くなった例も多数みられます。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール委員会を設置し食事、おやつ、水分摂取、運動、腹部マッサージ、最後に服薬管理をやっていきます。このことから排便、排尿のリズムをチェックするようにしています。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良でない限り利用者の希望に合わせています。	入居者の希望に応じて支援している。毎日入りたい方は毎日でも入浴し、あまり入りたがらない人でも最低週3回は入浴してもらえるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間当の定めはなく又うたた寝や昼寝の時間も必要な時間と考えています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は調剤薬局との連携の下管理をしています。介護計画を考える場合薬の作用も重要になってくるので、ケアカンファや日常の申し送りから重要事項として取り扱っています。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人行事の充実と社会参加の機会を考えながら支援をしています。		

福岡県 グループホームみどりのうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や買い物等の外出支援はしています。</p>	<p>散歩や買い物等、希望に応じて対応している。外食等の希望が出ることもあるが、事前にお店に協力依頼をしたり、家族に連れて行ってもらったりと、周りの人々と協力しながら、入居者の希望を尊重出来るように働きかけを行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設内でのお金の所持はしないようにしていますが外出時のお店での買い物や飲食時ご自身に支払ってもらうようにしています。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望の本質を見極めることを努力した上で、家族と本人の混乱を招かないよう注意を払いながらするようにしています。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やリビングなどの主要の場所には、季節の草花などを飾っています。</p>	<p>玄関前には花が植えられていたり、リビングも普通の家庭にあるような家具が配置されており、安心して過ごせる空間づくりがなされている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでのグループ分けや、小人数化の対応にも配慮した空間作りをしています。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は、信仰も含め全てにおいて他の利用者の迷惑にならないのであれば、制限はありません。</p>	<p>入居者の状態に応じて畳を敷いたり、ベッドを利用したりして居心地よく過ごせるように配慮している。また、それぞれが思い思いのものを持ち込み、居心地のいい自分の部屋を作り上げている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>危険予測の研修と技術研修の実施</p>		